➔ 3年生｜「きつつきの商売」｜発展

～国語開きは教科書を持って外で音読を～

3年生になって最初の教材です。先生方は、子どもたちに「国語を好きになってほしい」と願っています。この教材でそのきっかけを作りたいと願っていることでしょう。では、この教材で、どんなことを指導したらよいか考えてみましょう。

まずは、何よりも音読です。声を出して読む楽しさを充分に味わわせてあげましょう。

音読は、学習の基礎となり、これからさまざまな表現活動に取り組むときに、ゆるぎない土台となります。３年生で初めて学習することになる、理科や社会科でも、音読は強い味方になってくれます。授業開きで音読することは、子どもたちに音読の大切さを強く印象づけることでしょう。

学習の手引きでは、「聞こえてきた音や、登場人物の様子がよく分かるように音読」することや、グループでの音読、工夫を説明しての音読について書かれています。でも、いろいろ手立てをしていても、なかなか上手になったという実感を持たせるのは難しいところです。

そこで、まずは土台作りをしましょう。立って読むときの姿勢、呼吸の仕方、教科書の持ち方を確かめます。腕・体・教科書で輪を作るように教科書を持ちます。そうすると、楽にいい声が出ます。さて、ではその学習をどこで行ったらよいでしょう。

音読を効果的に行うためにも、「聞こえてきた音」を実際に聞くためにも、ちょっと楽しく読むための工夫をしてみます。子どもたちを「おとや」のお客さんにしてしまうのです。

「国語開き」の日。外を見ると、いい天気です。これはチャンスです。国語の教科書を一冊もって、外に出てみましょう。

実際に校庭に出て、まず、思いっきり広がって音読してみましょう。

次に、花壇の横や桜の花の下で音読してみましょう。そして目を閉じて、いろいろな音も聞いてみましょう。屋上に上がってみるのもよいかもしれません。

「みんなのおうちまで、声を届けよう。」

と誘ってみます。

「でも、怒鳴った声では届かないよ。張りのあるいい声でなければ届かないんだよ。」と付け加えることを忘れずに。「この声が張りのある声なんだよ。」と具体的に教えてあげることができます。教室に戻ると、これまでの読み方と変わっているのが分かります。

２つのグループに分かれて、読んだ声が春の空に吸い込まれていくのを、お互いに聞いてみましょう。そうすれば、みんなも「おとや」のお客さんです。

開放的な春の空に向かって、張りのある声で音読してみましょう。ひとりひとりの姿勢を確かめるのを忘れずに。

文・写真｜須田尚（浦安市立明海小学校）